



校長室だより

月立小学校 校長 村上克弥
平成30年7月30日
☎55-2260 第4号

教育目標

ふるさとに誇りをもち
夢と希望に満ちた
心豊かでたくましい児童の育成



～夢や希望が語れる夏休みに！～

大きな事故や怪我等もなく、一学期を無事に終えることができました。4月以来「ふるさとに誇りをもち 夢と希望に満ちた 心豊かでたくましい 児童の育成」を教育目標として、教職員と保護者の皆様と協力し、子どもたちの健やかな成長を育てまいりました。特に、あいさつ、返事、掃除、だれにでもやさしくする等を身に付けさせることに全力を注いできました。また、基礎学力の向上は欠かせないものであり、この点にも全学年が共通理解して、取り組んでまいりました。その成果は着実に上がっていることと信じております。子ども一人ひとりの健全な成長と真の学力の向上を図るためには、親と教師の信頼関係が一番大切です。親と教師間の不信感や教師間の不一致は、子どもの成長をさまたげる要因であることを肝に銘じてきました。どの子もすばらしい可能性をもっています。その可能性を発見し、引き出し、自覚させ、助長するのが私たち教師の役目です。どんな可能性も、放任しておいたのでは、その芽は健全には育ちません。これからも保護者の皆様と協力しながら、それぞれの役割を果たしてまいりたいと思います。

さて、子どもにとって楽しい夏休みがやってきました。基本的に夏休み中の子どもは家庭での生活が中心となります。休み中には「学びデー」を計画しておりますが、自分で計画し、実行し、反省する生活となります。自律心と意志力(やる気)を育てる機会として重要な意味を持ちます。読書や自由研究などに打ち込むことができる夏休みです。学校では夏休みの指導のめあてとして、3つを定めています。

- ①計画を立て、規則正しい生活をする。
- ②健康で安全な生活をする。
- ③家庭の一員としての仕事をする。



この3つをご家庭においても十分にご理解していただきたいと思います。子どもたちは、家庭の一員として認められたいと願っています。家庭、学校、学級等どんな場においても、そこに居場所があって、子どもたちが希望や意見が語れることが大切です。これには我々大人が努力して、子どもたちの夢や希望が語れる夏休みにしてやらなければならないと思います。どうぞ、有意義な夏休みとなるよう子どもたちをお願いいたします。

夏休み前にもう一度確認したいことを考えているうちに次の詩を見つけました。

「はきものをそろえる」 (はきものとはくつやスリッパなどのことです)

はきものがそろろうと心もそろろう 心がそろうとはきものもそろろう ぬぐとくにそろえておくと
はくときに心がみだれない だれかがみだしておいたら だまってそろえておいてあげよう
そうすればきっと 世界中の人の心もそろおうでしょう

これは、長野県のお寺のお坊さん藤本幸邦(ふじもと こうほう)という人が作った詩です。仏様の脚下照顧(きゃつかしやうこ)という教えをもとに作られた詩です。

脚下照顧とはほかに向かって理屈を言う前に、まず自分のあしもとを見て、自分のことを反省しなさい。身近なことに気をつけなさいということです。

心を整えることが事故を防ぐことにもつながります。みなさんで心掛けていきましょう。